

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	238人	社会	238人	数学	236人
	理科	238人	英語	238人		

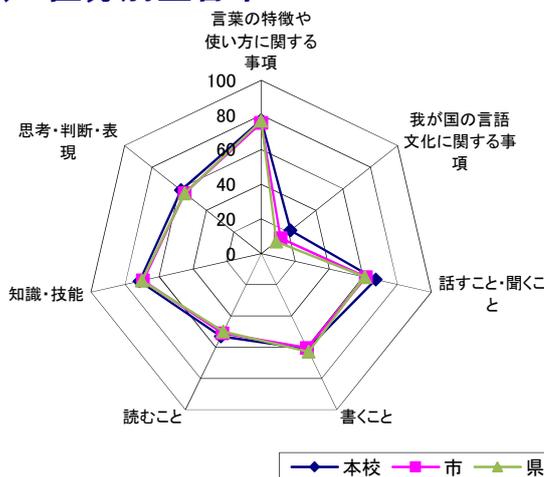
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.1	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	21.4	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	67.4	61.6	60.9
	書くこと	61.1	60.4	62.9
	読むこと	53.1	51.0	49.9
観点	知識・技能	71.5	69.4	70.1
	思考・判断・表現	58.7	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

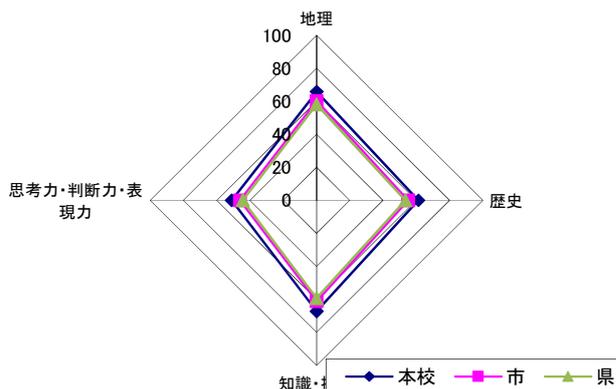
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○正答率は市の平均を1.5ポイント、県の平均を0.4ポイント上回っている。特に「文を単語に分けて抜き出して書く」問題では、正答率が82.8%となっており、市の平均を9.1ポイント上回っている。 ●「漢字を正しく書く(幹)」では、正答率が25.2%で市の平均を0.5ポイント、県の平均を10.9ポイント下回っている。	・「漢字を正しく読む」、「漢字を正しく書く」それぞれで1つずつ市平均、県平均を下回った設問がある。日頃の授業の中で、新出漢字の指導を徹底して行い、一画一画正確に書かせる等、細かい指導をしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は市の平均を7.1ポイント、県の平均を10.2ポイント上回っている。	・今後も授業の中で、歴史的仮名遣いについて規則性を確認するとともに、音読を積極的に取り入れ、歴史的仮名遣いに親しむことができるようにしていきたい。
話すこと・聞くこと	○正答率は市の平均を5.8ポイント、県の平均を6.5ポイント上回っている。 ●「条件に従って自分の考えを書く」問題では、正答率が、市の平均を5.7ポイント、県の平均を7.9ポイント上回っているものの、32.8%となっている。	・授業で行っている教材の聞き取りのテストの成果が出ていると思われる。今後もテストを継続し、さらに、話の内容の重要なものは何かを捉えながら記録を残せるように、ポイントを押さえていきたい。 ・話を聞くだけでなく、その後、自分の考えを形成していくところまで意識できるよう、指導していきたい。
書くこと	○「指定された長さで文章を書くことができる」問題では、正答率が市の平均を2.3ポイント、県の平均を0.2ポイント上回っている。 ●正答率は、市の平均を0.7ポイント上回っているが、県の平均を1.8ポイント下回っている。	・条件に沿って書く作文に対するの苦手意識が顕著に表れた結果である。授業の中で、自分の考えをまとめて、書いて表現する活動を積極的に取り入れたい。また、型にはめた文章構成を繰り返し指導するなど苦手意識を克服させたい。
読むこと	○正答率は市の平均を2.1ポイント、県の平均を3.2ポイント上回っている。 ●「登場人物の行動や心情を時間の流れに沿って並び替えて書く」問題では、市の平均を2.6ポイント、県の平均を0.5ポイント下回っている。	・授業の中で、登場人物の行動や心情に注目させる発問を多くすることで、時間の流れに沿って捉えることができるよう、丁寧に指導していきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	65.7	60.1	58.1
	歴史	61.3	55.1	53.5
観点	知識・技能	67.2	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	50.9	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

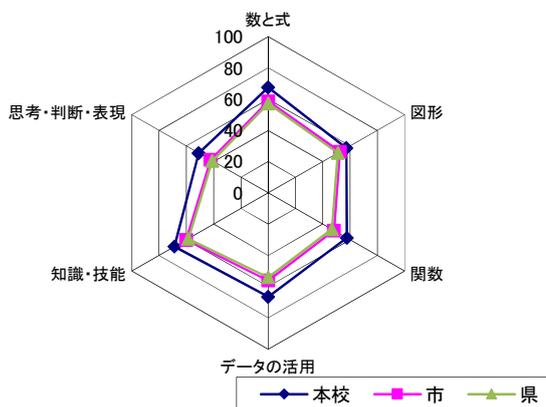
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○正答率は、市の平均を5.6ポイント、県の平均を7.6ポイント上回った。</p> <p>○全ての問題で県の平均正答率を上回っており、市の平均正答率を下回ったものは1問だけであった。</p> <p>○特に、「資料をもとに、アメリカ合衆国の農業の特色を読み取る」問題では、市の平均を13.1ポイント、県の平均を15.2ポイントと大きく上回った。また、「資料から、オーストラリアへの移民の推移を読み取る」問題でも、市の平均を12.7ポイント、県の平均を14.1ポイントと大きく上回った。</p> <p>●「ヒンドゥー教の特徴と分布の理解」を問う問題では、県の平均を1.3ポイントとわずかに上回ったものの、市の平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>●「アフリカ州の経済の課題について、複数の資料から関連付けて考察し、表現する」記述の問題では、市の平均を6.0ポイント、県の平均を4.7ポイント上回っているものの正答率が24.8%となった。</p> <p>●「カタールの人口構成の特徴を複数の資料から考察し、表現する」記述の問題では、市の平均を5.8ポイント、県の平均を7.7ポイント上回ったものの、正答率は31.1%、無回答率が32.4%となった。</p>	<p>・授業の中で地図やグラフ、地域の特徴を表す写真などの資料を積極的に活用していきたい。分布やグラフの変化を読み取る力は少しずつ身につけてきている。しかし、資料から読み取ったことを記述したり、複数の資料を関連付けて考察したりする問題の正答率が低いため、資料を提示するだけでなく、それぞれの資料の要点を示したり、読み取ったことを表現する時間を取り入れたりする指導を行っていく。</p> <p>・宗教や気候など地域ごとの特徴や分布についての学習では、似た特徴をもつ地域や文化と混同してしまう様子が見られるので、共通点や相違点が分かるように表にまとめたり、地図に書き込んだりするなど生徒が作業する活動を取り入れることで学習内容の定着を図りたい。</p>
歴史	<p>○正答率は、市の平均を6.2ポイント、県の平均を7.8ポイント上回っていた。</p> <p>○全ての問題で市や県の平均正答率を上回っていた。</p> <p>○特に、「鎌倉幕府の政治のしくみ」の理解を問う問題は、市の平均を14.5ポイント、県の平均を17.7ポイントと大きく上回った。また、「平城京から平安京に遷都したときの変化を、資料をもとに考察し、表現する」記述の問題でも、市の平均を13.2ポイント、県の平均を14.0ポイント上回った。</p> <p>○「万里の長城が建築された理由」を問う問題では、正答率が92.0%であった。</p> <p>●「元寇が鎌倉幕府と御家人の関係に与えた影響について、資料をもとに考察し、表現する」記述の問題では、市の平均を2.3ポイント、県の平均を4.0ポイント上回ったものの、正答率は29.0%、無回答率は29.4%となった。</p> <p>●「平城京から平安京に遷都した理由を、資料をもとに考察し、表現する」記述の問題では、市の平均を7.3ポイント、県の平均を8.1ポイント上回ったものの、正答率は39.9%、無回答率は23.5%となった。</p>	<p>・歴史的に大きな出来事に関する知識を問う問題では正答率が80～90%となっている問題が複数あり、学習内容の定着が見られる。重要な歴史的事象については、引き続き、授業でも大きく取り上げるとともに、ワークや小テストなどを繰り返し取り組ませ定着を図りたい。</p> <p>・地理の領域と同様に、資料の特徴を読み取ったり、変化に気付いたりすることはできるが、複数の資料を関連付けて考察したり、それらを記述したりすることに課題が見られる。歴史的な出来事そのものだけでなく、その背景やその後の影響といった時代ごとの大きな流れの中で出来事を捉えられるようにしていきたい。</p> <p>・また、歴史的な出来事が起こる背景やその後の影響には気候など地理の領域との関わりや現在の生活との関わりがあるので、それらを授業に取り入れることで歴史を学ぶ意義を感じさせ、意欲的に取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.5	58.6	57.2
	図形	57.4	52.6	51.1
	関数	57.7	48.2	46.8
	データの活用	66.5	56.1	54.1
観点	知識・技能	68.8	60.2	58.6
	思考・判断・表現	50.9	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

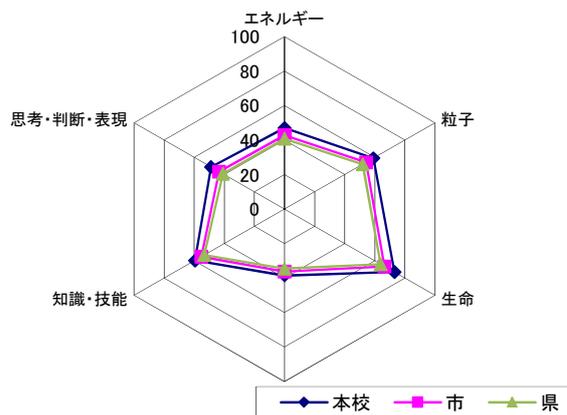
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○正答率は、市の平均を8.9ポイント、県の平均を10.3ポイント上回っている。特に「素因数分解をする」の問題では正答率が89.4%であり、市の平均を16.5ポイント上回る結果となっている。</p> <p>●正の数と負の数の大小関係について、正しいものを選ぶ問題の正答率は市の平均を2.6ポイント上回るものの16.1%であった。</p>	<p>・数と式の領域における正答率は全体として高いが、比例式について、当てはまる式と数を答える問題の無解答率が高い。比例式の仕組みを理解させ、方程式の立式につなげていけるように指導していく。</p>
図形	<p>○正答率は、市の平均を4.8ポイント、県の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>●ねじれの位置関係についての問題の正答率は70.3%であるが、市の平均を1.3ポイント、県の平均を0.6ポイント下回っている。</p> <p>●半径の等しいおうぎ形と円の面積の大きさを考える問題の正答率は、市の平均を0.3ポイント上回っているが、25.0%であった。</p>	<p>・図形の領域における正答率は50%を超えているものの、おうぎ形の面積を求める問題の正答率が低い。面積を求める公式を理解させ、使いこなしていけるように指導していく。</p>
関数	<p>○正答率は、市の平均を9.5ポイント、県の平均を10.9ポイント上回っている。特に比例のグラフを書く問題の正答率は72.9%で、市の平均を24.4ポイント、県の平均を27.3ポイント上回っている。</p> <p>●与えられたグラフから求め方を説明する問題では、無回答率が41.5%であった。</p>	<p>・関数の領域における正答率は50%は越えているものの、与えられたグラフから求め方を説明する問題の正答率が低く、無回答率も高い。数学的な表現を用いた説明ができるように問題演習を繰り返していくなど、指導を行っていく。</p>
データの活用	<p>○正答率は、市の平均を10.4ポイント、県の平均を12.4ポイント、上回っている。特に、度数分布表からある階級の相対度数を求める問題の正答率は66.1%で、市の平均を16.7ポイント、県の平均を19.6ポイント上回っている。</p> <p>●2つの度数折れ線から示された考えが正しい理由を読み取り、説明する問題では、無回答率が28.0%であった。</p>	<p>・データの活用の領域における正答率は全体として高いが、関数と同様に説明をする問題に対しての正答率が低く、無回答率も高い。数学的な表現を用いた説明ができるように問題演習を繰り返していくなど、指導を行っていく。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	47.1	42.8	40.8
	粒子	59.1	54.2	52.0
	生命	73.0	66.4	63.8
	地球	38.5	36.2	34.5
観点	知識・技能	59.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	48.8	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

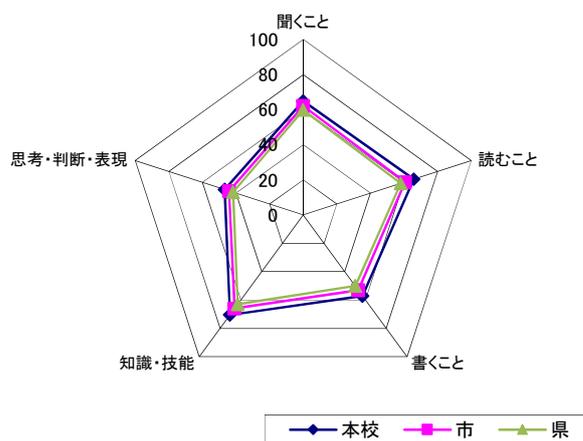
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○正答率は、市の平均よりも4.3ポイント、県の平均よりも6.3ポイント上回っていた。</p> <p>○「スクリーンに映っている像を選ぶ」問題では、県の平均よりも15.0ポイント上回っていた。</p> <p>●「弦をはじいたときに得られる音の波形を選ぶ」問題では、県の平均よりも0.5ポイント下回っていた。</p>	<p>・実際の音(大きさ・高さ)と音の波形を関連付けるために、オシロスコープなどを使って、音の波形を生徒に示す。目の前で起きている現象と音の波形を関連付けさせて、知識の定着を図りたい。</p> <p>・エネルギー分野は見えない現象が多くあるので、音の波形に限らず、グラフやモデル等を使って、現象の理解を深められるような指導をしていきたい。</p>
粒子	<p>○正答率は、市の平均よりも4.9ポイント、県の平均よりも7.1ポイント上回っていた。</p> <p>○「塩化ナトリウム水溶液をしばらく放置したあとの粒子モデルを選ぶ」問題では、県の平均より14.3ポイント上回っていた。</p> <p>●「鉄でできているかどうか調べる実験を選ぶ」問題では、県の平均より7.6ポイント下回っていた。</p>	<p>・金属の性質の定着を図るために、金属の性質や、他の金属と鉄の性質の違いを説明する。</p> <p>・実験を行う際に、生徒が課題から実験方法を考えるような授業を行い、生徒の思考力を深めるような授業をしていきたい。</p>
生命	<p>○正答率は、市の平均よりも6.6ポイント、県の平均よりも9.2ポイント上回っていた。</p> <p>○「分類を基準にした植物の特徴を選ぶ」問題では、県の平均よりも14.9ポイント上回っていた。</p> <p>●「胚珠の名称とイチヨウの雄花を選ぶ」問題では、県の平均よりも0.3ポイント下回っていた。</p>	<p>・裸子植物の説明をするのに、マツを用いて説明することが多いが、知識の幅を広げ、応用力をつけるため、他の裸子植物の写真や図を見せるなど、工夫をして指導していきたい。</p>
地球	<p>○正答率は、市の平均よりも2.3ポイント、県の平均よりも4.0ポイント上回っていた。</p> <p>○「示準化石の名称を答える」問題では、県の平均よりも11.8ポイント上回っていた。</p> <p>●「マグニチュードと進度についてあてはまる言葉を選ぶ」問題では、県の平均よりも6.1ポイント下回っていた。</p>	<p>・知識の定着を図るために、重要語句の確認を行う。</p> <p>・重要語句をが答えられるだけでなく、その意味を説明できるような活動を、授業中に行っていきたい。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.9	62.0	59.7
	読むこと	65.8	60.6	58.0
	書くこと	57.1	53.1	50.1
観点	知識・技能	70.6	66.0	63.0
	思考・判断・表現	46.7	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○正答率は、市の平均より2.9ポイント、県の平均より5.2ポイント上回っている。</p> <p>○「対話の内容を聞き取り、適切に回答することができるかどうかをみる」問題では、県の平均より13.1ポイント上回っていた。</p> <p>●「英文の概要を聞き取ることができるかどうかをみる」問題では、県の平均より0.7ポイント下回った。</p>	<p>・聞き取りがスムーズにいこう、単語や文章を読む時には発音記号を意識して読むように指導するスタイルを継続して行く。</p> <p>・英語のやりとりを中心とした授業展開を心掛け、授業の中で英語を聞いたり、話したりする機会を多く設けていく。</p> <p>・ALTやリスニングテストを活用し、まとまりのある長い文章を聞く機会を設けていく。</p>
読むこと	<p>○正答率は、市の平均より5.2ポイント、県の平均より7.8ポイント上回っている。</p> <p>○「英文から必要な情報を読み取り、適切な表を選ぶことができるかどうかをみる」問題では、県の平均より9.6ポイント上回っていた。</p> <p>●「対話から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶことができるかどうかをみる」問題では、県の平均を6.5ポイント上回っていたが、校内の正答率は55.9ポイントと半数となり、高いとは言えない正答率であった。</p>	<p>・定期的に単語テストを実施し、生徒の語彙力を高めることで、英文の意味を捉えられるようにする。</p> <p>・さまざまな文法事項や語形、語法の知識を定着できるように、授業中の問題や定期テストなどで繰り返し出題していく。</p> <p>・授業内では長文を読んで、内容理解の問題を解く機会を設ける。</p>
書くこと	<p>○正答率は、市の平均より4ポイント、県の平均より7ポイント上回っている。</p> <p>○「書くこと」全体の正答率は多くの問題で県の平均を上回っているものが多く、10ポイント以上上回っているものもある。「英文を正しい語順で書くことができるかどうかをみる」問題では18.3ポイント、「語形・語法を理解することができるかどうかをみる」問題では14.7ポイント上回っている。</p> <p>●「対話の流れに合った英文を書くことができるかどうかをみる」問題では、校内の正答率が13.9ポイントと低い上に、県の平均より3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・定期的に単語テストを実施し、生徒の語彙力を高めることで、表現したいことを表現できるように支援していく。</p> <p>・生徒の書いた英文を教師とALTで添削するなど、正しい英文を書くことができるように指導していく。</p> <p>・英文を読んで適切な英文を書いたり、英文を聞いて適切な英文を書いたりするなど、目的・場面・状況に応じた英文を書く機会を設ける。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」で肯定的回答が市の平均を10ポイント以上上回っていて、「家で、学校の授業の復習をしている。」の項目で肯定的回答が市の平均を12ポイント以上上回っている。また「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」の項目で肯定的回答が市の平均を10ポイント以上上回っている。このことから授業に向けての学習習慣が身に付いていることがわかる。

○「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」で肯定的回答が市の平均を15ポイント以上上回っていることから、テストを活用した復習をしっかりと行っていることがわかる。

○「学校の宿題はやりたくなる内容だ。」で肯定的回答が市の平均を12ポイント以上上回っていて、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」で肯定的回答が市の平均を10ポイント以上上回っていることから知的好奇心が高いことがわかる。

○「学習塾(家庭教師も含む)で勉強していますか。」の項目が肯定的回答が市の平均を9ポイント以上下回っているにも関わらず、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の項目で肯定的回答が市の平均と同程度であることから自分なりの学習方法が十分に確立している生徒が多いと考えられる。

●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の項目で肯定的回答が市の平均と同程度であることから協働的な学びが不得意の生徒が多いことがわかる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」で肯定的回答が市の平均を1ポイント程度上回っている。今後の成長のためにも自分の考えをまとめる力を育てることが大切で、これが協働的な学びによる効果の伸長につながる。

今後、授業の取り組みだけでなく個別の学習方法の定着ができるように指導したい。また学んだことを整理し、自分の考えを表現できる力をつけさせたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらい提示と振り返りを行う。 ・チャイム前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の明確化は、概ね徹底できている。 ・落ち着いて、授業に集中して学習することができている。 ・家庭学習の習慣は、定着しつつある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習方法の定着と自分の考えを文章にまとめること 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習方法 ・自分の考えを表現すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習方法について、具体的に教えていく。 ・授業の中で自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。